11 2026 Nov
KANZAKI
No. 248



脊振の宝を届けたい
脊振を愛する会



脊振の宝を届けたい。

脊振を愛する会

脊振ならではの歴史や自然の豊かさを、もっと多くの人に届けたい。そんな想いから「脊振を愛する会」を立ち上げた真島久光さんは、定年退職後に有志５人で活動をスタートさせました。地域への愛情を原動力に、仲間とともに積み重ねてきたその歩みと、活動に込められた想いを紹介します。

脊振を愛する会とは

平成27年９月、地域おこしと文化財保護を目的に設立。

毎年総会で年間10本の企画を立案し、主体的な活動を続ける地域グループです。

脊振に息づく歴史的背景に光を当てた顕彰活動や観光・文化情報の発信を通じて、脊振を訪れる人が増え、地域に活気が生まれることを目指しています。

皆の想いはそれぞれでも、脊振への想いはひとつ。現在35名の仲間たちで活動をしています。

脊振の眼鏡橋









倉岡神社



脊振小学校ふるさと学習

脊振を愛する会の活動

1 地域の魅力を伝える「観光ガイド」

市民参加の観光ツアーでは、真島さんが案内役を担います。国の登録有形文化財に指定された脊振小学校の石造りの校門や、佐賀県遺産に指定された倉岡神社など、長年住んでいても気づかない歴史の奥深さを、丁寧に伝えています。



日本一の石門を案内している様子

3 山と人をつなぐ「登山道の環境整備」

秋の登山シーズンに向け、脊振山の登山道を会員で整備しています。小さな川に橋を架けたり、茂った草を刈ったり、荒れた道を補修したり。地道な作業を重ねながら、安全で歩きやすい山道を守り続けています。





2 地域を元気にする「脊振かかし村」

毎年テーマを変えながら約30体のかかしを手作りし、田んぼに展示しています。かかしに着せる服は地域の人たちが提供。「今年は何だろう」と楽しみに訪れるリピーターも多く、脊振の秋を彩る風物詩となっています。



昨年のテーマ「運動会」開催の様子



カカシ作成の様子

4 次の世代へつなぐ「子どもたちへの伝承」

地元の小・中学生を倉谷神社や眼鏡橋、九州で最も古いとされる煉瓦造りの水力発電所へ案内し、郷土の歴史と文化を伝えています。小学生との活動では学びの後にそうめん流しも行い、楽しい思い出とともにふるさとへの関心を育てています。





各施設を案内する様子



真島 久光（ましま ひさみつ）さん

神埼市脊振町在住。神埼市役所を定年退職後、森林組合に勤務。岩政倉今地区の区長も経験。平成27年9月に「脊振を愛する会」を立ち上げ、現在も代表として活動中。

脊振町には、誇れるものがたくさんあって、歴史も自然も知れば知るほど奥が深いんです。市役所を退職してからも「脊振の豊かさを、もっと多くの人に届けないともったいない」とずっと思っていました。仲間に声をかけると「一緒にやろう」と言ってくれて、有志５人で立ち上げました。

旗揚げとなったのが、徳川権七（とくがわごんしち）さんの偉業を伝える映画「太陽の昇る山」の上映でした。上映会では地元の方を中心に約100人が集まり、徳川さんのお孫さんも駆けつけてくれました。その反響が広がり、会員も30人に増えたんです。

脊振に長年住んでいる方でも、地元の知られざる歴史や文化を案内すると「こんなところだったのか」と目を丸くされることがあります。子どもたちも、希少なカジカガエルが身近な川で鳴いていることを知って、目を輝かせるんですよ。

この町には、まだ気づかれていない宝がたくさんあります。地域に根ざした活動だからこそ届けられるものを伝えていくことが、私たちの役割だと思っています。

しかし、一番の問題は後継者がいないことです。一人でも多くの方が脊振を訪れ、町も人も活気づいていく。そんな未来を信じて、できる限り活動を続けていきたいですね。



アジサイ園の管理




カジカカエルの里つくり




シャクナゲ園観察会

脊振の歴史と自然をめぐる

真島さんオススメスポット



日本一の石門

大正３年建設の巨大な石門。高さ約4.6m、重さ約13～14ｔの石造りの校門です。



倉岡神社

四季折々の自然が楽しめる倉岡神社。特に秋は、色づいた木々が境内を彩り、趣ある風景が広がります。



高取山公園のシャクナゲ

春になると、山の斜面を色鮮やかなシャクナゲが彩ります。園内を散策しながら楽しめる春の名所です。



広滝第一発電所

緑の中に映える赤レンガの発電所。明治時代に建てられ、現存するレンガ造りの発電所では九州最古です。



脊振の眼鏡橋

明治時代に造られた石造りの眼鏡橋。橋の下から見上げる、美しい石組みのアーチがおすすめです。

脊振の偉人

徳川権七（とくがわごんしち）とは



明治37(1904)年から20年間、脊振の村長を務めた人物。脊振の将来を見据えて国有林の払い下げを受け「50年後に木が売れる」という壮大な計画で村民とともに植林事業に取り組みました。その木材収入は道路や学校の整備を支え、昭和34(1959)年には住民税の廃止も実現しました。

今年も開催！ 脊振かかし村へ行こう!!

10/31(土)～11/14(土)



今年のテーマは「谷間に響く音楽会」

問い合わせ　脊振を愛する会　☎59-2801(真島)

さまざまな楽器を手に、今にも演奏を始めそうなかかしたちが倉谷地区の田んぼに登場！個性あふれるかかしたちをぜひご覧ください！

神埼市合併20周年記念事業

かかし村の開催と併せて「音楽会」を開催します。ぜひお立ち寄りください♪

と　き　11月７日(土)　10時～12時

ところ　脊振町倉谷(宝光寺)　駐車場　倉谷地区グラウンド



かんざき フォト トピックス

8/9 神埼市合併20周年で「鷺流狂言の集い」披露

神埼市合併20周年を記念した「鷺流狂言の集い」が、はんぎーホールで開かれました。

江戸時代に隆盛を極めた鷺流狂言を現在も伝承する3団体が集いました。

千代田町の高志狂言保存会が「半銭」、新潟県の佐渡鷺流狂言研究会は「盆山盗人」、山口県の山口鷺流狂言保存会は「文荷」を披露しました。

また、この日は千代田中部小高志狂言クラブの児童も「部須」を演じました。



9/14 100歳の節目をお祝い

長寿をお祝いするとともに、これまで地域や社会に貢献されてきた皆さんに感謝を伝えるため、副市長が今年度100歳を迎えられる方を訪問し、祝金を贈呈しました。

お祝いの言葉を受けた皆さんは「100歳まで生きられるとは思っていませんでした。皆さんに親切にしていただいたおかげです。ありがとうございます」と、これまで支えてくれた人たちへの感謝を話しました。

今年度、市内で新たに100歳を迎えられる人は13人、100歳以上の人は45人となりました。



9/27 響き渡る金管の音 N響のザ・チェンバーブラス公演

神埼市合併と千代田文化会館の20周年記念事業「ザ・チェンバーブラス-NHK交響楽団金管奏者たち-」公演がはんぎーホールで開催されました。

NHK交響楽団首席トランペット奏者の菊本和昭さんら5人がトランペットとホルン、チューバ、トロンボーンの金管五重奏で、J.S.バッハ「小フーガ ト短調」やG.ガーシュウィン「パリのアメリカ人」などを奏でました。

演奏の合間には楽曲や楽器をユーモアたっぷりに紹介。会場から拍手や笑いが起きました。

公演後は演奏指導クリニックもあり、14人が熱心な指導を受けました。



10/16 九州地区高校生介護技術コンテスト 神埼清明高校が優秀賞を受賞

九州地区高校生介護技術コンテストで神埼清明高校の生徒が優秀賞を受賞し、市長を表敬訪問しました。同コンテストでは、九州各県の代表校が日ごろ培った介護技術を競い合いました。

表敬訪問では、大会での経験や受賞の喜びを市長に報告。生徒たちは、10月25日に佐賀県で開催される全国大会に向けて「応援してくれる皆のために頑張りたい」と意気込みを語りました。

市長は「今までやってきたことに誇りを持って頑張ってほしい」と激励しました。



9/26・27 今日から私も神埼そうめんマイスター！ 神埼そうめん作り体験教室

神埼市中央公民館、脊振交流センターで、市内小学生を対象とした神埼そうめん作り体験教室が行われました。

これは市の伝統産業である神埼そうめんを身近に感じてもらおうと実施したもので、講師は神埼そうめん協同組合。講師のお手本を見て「おー！」という歓声が上がり「なぜ塩水を入れるんですか？」などの質問もありました。

参加した児童は「麺を薄くするのが難しかったが、機械をくるくる回すのが楽しかった」と感想を話してくれました。

同組合の井上義博理事長は「子どもたちと保護者が笑顔で作っている姿を見ることができて嬉しかった」と話しました。





10/1 『江見線バス』と『ふれあいタクシー「のらる」』が運行開始

日常の移動手段が便利になりました。

江見線バスは運行主体が沿線自治体に変更。さらに、市内を自由に移動できるふれあいタクシー「のらる」も導入。いずれも10月1日に運行開始の式典を行いました。

西鉄バス運行の江見線は深刻な運転手不足のため9月末で廃止。代わりに神埼市、佐賀市、みやき町が共同で「ジョイックス交通」に委託して運行します。

「のらる」は予約して、好きな時間に好きな場所へ市内を移動できることが大きな特徴です。「吉野ケ里観光タクシー」が市の委託を受けて運行します。

市長は「みんなで乗って支えましょう」と呼び掛けました。

詳細は15ページをご覧ください。











